資料4「課題－方針－措置」対照表

凡例　当初計画　変更箇所　○ 実施　△ 準備　× 実施なし

保存・活用に関する課題	方針		保存・活用に関する措置（事業名）	事業内容	計画期間（R4～12） 前期 4	5	6	中期 7	8	9	後期 10	11	12	進捗状況
担い手の減少 高齢化 理解不足	守る	1	文化財の指定・登録の推進	把握調査や専門家によって価値付けされた文化財は順次新規指定・登録を推進し、保存と活用を図る。	×	×	×	×						前期の新規指定はなし。中期に複数件の新規指定を予定。
		2	美利河砂金採掘跡の保存整備	安全に見学できるような環境整備、解説案内板を設置し、学校教育・社会教育両面での活用や観光活用を図る。	×	△	△	△						R6保存目的調査を実施。R7設計準備、R8以降に実施設計、工事着工、完了予定。
		3	「いまかね遺産」選定会議の開催	地域住民が選定過程に加わることで課題を共有し、地域の歴史文化を守る連携・協力体制を構築し、あわせて保護意識の啓発を図る。	×	○	○	○						R5「いまかね遺産保存活用実行委員会」設置後、毎年会議を開催。
			文化財の防災・防犯事業	文化財ハザードマップ・文化財危機管理マニュアルを作成し、危険個所の把握と災害時の連絡体制を構築する。保存環境の維持や防犯体制の強化に取り組む。	×	×	△	△						ハザードマップはR7作成予定。管理マニュアルは町の防災計画改定と合わせて作成予定。
調査が不十分 職員体制 連携不足	調べる	4	重要遺跡所在確認調査	把握調査で確認された重要遺跡（チャシ跡、縄文遺跡等）の所在確認・試掘調査を実施し、今後の保存整備に向けた基礎資料とする。	○	○	○							R4・5チャシ跡疑定地を試掘調査、縄文遺跡の地下探査実施。R6美利河2砂金採掘跡保存目的調査。
		5	ピリカ遺跡の専門的調査と報告書刊行	重要性が認識されながらも未解明の部分の調査を行い、遺跡の価値付けをより明確にする。未報告分の調査報告書を刊行して情報公開し、今後のさらなる研究や教育普及のための基礎資料とする。	×	○	△	△						R5に研究成果を一部公開。報告書刊行は国補助が該当せず未実施。編集準備は進める。国学院大分も含む。
		6	マンガン鉱山の把握調査	専門家の指導助言のもと、鉱山現地での分布調査や文献調査、保管資料の調査を進め、鉱山の全容を把握し、教育普及・観光活用を図る。			○	△						R6現地踏査し、坑道跡や遺構等を確認した。R7以降も分布調査を継続。
		7	カニカン岳金山跡の把握調査	採掘坑や露頭掘り跡、鉱山臼散布域、拠点的作業場等、現地での所在確認調査や文献調査を実施して鉱山の全容を把握し、教育普及・教育利用の基礎とする。	○	○	○	○						R3から調査継続中で、R6鉱山臼散布地（テラス）を確認した。R7ルート開削、専門家の現地調査を実施。
		8	ピリカカイギュウ化石の専門的調査	ピリカカイギュウ化石の専門的研究、価値付けを実現し、今後の普及啓発・教育利用の基礎とする。			○	○						R6専門家に実物資料（指定文化財）を貸出し、研究に着手。R8までを目途に成果発表予定。
		9	歴史的建造物・民俗芸能の把握調査	寺社や民家等の歴史的建造物の調査で保存対象を把握し、併せて祭礼等の民俗芸能の悉皆調査をし、その由来や失われたものを把握する。			△	△						R6専門家を招聘し、これまでの調査成果を町民向けに報告。把握調査は中期で着手。
施設未整備 わかりづらい 受入体制	磨き上げる	10	ピリカカイギュウ化石の特設展示場整備	産出地点の解説板を改修するとともに、実大復元模型や町内産の貝化石等の展示場をわかりやすい形で整備し、教育普及・観光活用両面での活用を図る。施設整備の方向性については、中期段階までに協議、決定する。										産出地点の解説版の改修はR8に砂金採掘跡の整備と合わせて実施予定。
		11	ピリカ遺跡に関する調査研究成果の活用	蓄積した調査研究の成果を公開セミナーの開催等を通して地域住民に還元するとともに、研究機関や専門家の行う研究活動の支援や連携協力を通して、遺跡の価値付けをさらに磨き上げる。	△	○	○	○						R5特別展開催。R6文化庁の列島展に出展。研究収録「今金地域研究」復刊した。
		12	フットパスコースの整備・周遊アプリの開発	美利河地区にある多様な文化財を周遊できるコースを整備し、教育利用と観光活用を図る。ピリカプロジェクト委員会の取組を継承し、技術開発は大学等の研究機関や専門家と連携し、内容を洗練化する。	×	×	○							フットパスコースマップはR6に完成・頒布した。内容の拡充とより広い活用を図る。
		13	マンガン鉱山・国鉄瀬棚線の再現展示	鉱山全景のジオラマ制作や、動力機械を活用した再現展示等で、稼働時の様子を臨場感もって伝えられるよう整備する。瀬棚線関連の資料収集を推進し、展示会等を通して鉄道の果たした功績を後世に伝える。事業は地元愛好者団体と連携する。	○									R4「瀬棚線廃線35年記念展・ジオラマ展示会」を開催。マンガン鉱山は調査終了後に実施。
		14	歴史文化を活かした観光活用	砂金関連やマンガン鉱山などの産業遺産を北海道遺産に申請し、選定を目指す（令和4年10月発表）。関係課・関係機関と連携して、町外の関連遺産等とつながる周遊ルートを設定し、観光活用を図る。	○	△	△	○						R4に北海道遺産選定決定。文化財めぐりバスツアー等、町民向けは実施。R7にCBツアーズ受入。
学ぶ機会少ない 受入体制	育てる	15	「ふるさと学習プログラム」の導入	学校教育の課程の中に体験プログラムを学年に応じて組み込み、町の歴史文化を学べるしくみを導入する。義務教育を修了したときにはすべての子どもたちが今金町の歴史文化を知ることができるよう、関係機関と連携をとり、受入態勢を整備する。	○	○	○	○						R4から各小中学校（小3～中1までの5学年）で取組中。学校教育の中に定着した。
		16	定期的な講習会を通じたボランティア養成	講習会を通じてボランティアガイドを要請し、歴史文化の保存と継承を図る。既存の団体や興味関心ある人を積極的に呼び込むとともに、行政が活動支援を行い、運営の円滑化を図る。	×	△	△	○						R5から文化庁補助事業で見学機会の設定や講演会を実施。R7以降、解説マニュアルを活用予定。
		17	子どもたちの参加機会の提供	史跡整備や重要遺跡の把握調査、専門家による現地調査など、可能な範囲で調整し、地元の子どもたちが現地を肌で感じられる見学・参加機会を設け、郷土の歴史や文化に興味関心をもつきっかけとする。	×	×	○	○						R6いまかね遺産探検隊として砂金採掘跡の現地調査。今金中の遠足で発掘現場を見学。
関連文化財群① （ピリカカイギュウ）		18	産出地点案内板の整備	化石産出状況の復元展示や、デジタル技術を活用した再現などを通して、当時この地でピリカカイギュウが暮らしていた様子をよりわかりやすい形で伝え、教育普及・観光活用に役立てる。	△	△	△							仮設の解説案内板を掲示中。R8以降、美利河砂金採掘跡の整備と合わせて一体的に実施予定。
関連文化財群② （ピリカ遺跡）		19	専門職員の安定的な配置と研究成果の発信	調査研究を担う専門職員の安定的な確保と配置、成果の発信媒体（館報などの定期刊行物）の定期発行、シンポジウムやセミナーの開催等を通して、ピリカ遺跡を旧石器文化の発信拠点とする。	○	○	○	○						R4から地域おこし協力隊・矢原隊員が着任。主に教育普及や調査研究分野で活動中。
関連文化財群② （ピリカ遺跡）		20	史跡ピリカ遺跡保存活用計画の更新	これまでの史跡整備の評価と今後の在り方について幅広い視野から審議し、これからの時代の望ましい保存活用計画を作成する。				×						中期から後期（R11・12）に変更し、次期計画へ円滑につなげる。
関連文化財群② （ピリカ遺跡）		21	近隣の関連遺産等との交流・連携	近隣地域との情報交流（見学交流や研修会の開催等）、観光業者とタイアップしたツアーを企画するなど、ピリカ遺跡の魅力にふれる機会をつくる。	×	○	△	×						R5八雲ジオパーク推進協と交流。R7八雲鉱山との交流を予定。
関連文化財群③ （砂金、マンガン、メノウ等）		22	北海道遺産として魅力を発信	本関連文化財群にまつわるストーリーをNPO法人北海道遺産協議会が運営する北海道遺産に申請して選定を目指し（申請中）、遺産の魅力を広く発信する。他の関連資産と連携を図り、観光活用を図る。	△	○	△	△						R4選定。R5アップダウン今金公演。R7道庁赤レンガ庁舎に北海道遺産PRコーナー設置。観光ツアー受入。
関連文化財群④ （インマヌエル教会関係）		23	文書史料や歴史的建造物の把握調査	資料を調査・収集し、記録保存を進め、本地域の開拓史をわかりやすい媒体として整備する。また、今金インマヌエル教会の基礎的な建造物調査を実施し、価値付けを明確にする。	○	×	×	△						R4熊谷市史編さん室来町時に合わせて史料を調査。町史編さんGと連携・情報共有を図る。
関連文化財群④ （インマヌエル教会関係）		24	建造物の保存措置	建造物の管理を担う地域団体と協議し、早期に補修が必要な個所がある場合には、適切な保存措置を講じる。	×	×	△	△						R6教会団体と意見交換。建造物専門家を招聘し、助言をいただいた。